

12/24

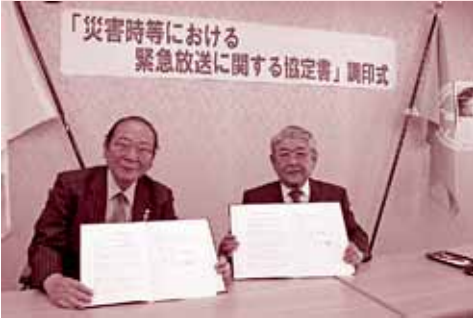
迅速に情報を提供するために

市

とおおむらケーブルテレビ株式会社との間で、「災害時における緊急放送に関する協定」を締結しました。

この協定は、市内で災害が予測されるとき、災害が発生したときなどの緊急を要する事態が発生した際に、同社の放送設備を利用し、迅速に市民の皆さんへ情報を提供する体制を整えたものです。今後も災害に強いまちづくりに向けて、関係各機関との連携をより一層強めるための体制を整えていきます。

災害時における緊急放送に関する協定締結式



12/24

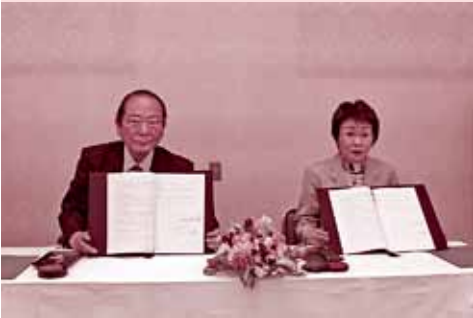
災害時に要援護者の避難所を開設

市

は、市内で老人ホームやグループホームを運営する28法人と、「福祉介護避難所の開設及び運営に関する協定」を締結しました。

これは、大規模な災害が発生した際に、通常の避難所での生活が困難な災害時要援護者を、市が指定する福祉介護施設で受け入れていただくもので、バリアフリー、専門的なケアのもとで生活できる避難所が開設されます。締結式では、市と各法人の代表者との間で調印を行い、大規模災害時に連携を強化することを確認しました。

福祉介護避難所の開設及び運営に関する協定締結式



1/6

絆を強め更なる交流を

友

好都市である中国上海市閔行区からの視察団が、松本市長を表敬訪問しました。

訪れたのは、同市の総合行政委員会主任などの行政関係者4人で、行政視察や友好交流項目協議書の内容に関する協議などを行いました。松本市長は、「友好の絆をさらに強め交流していきたい。」とあいさつし、これからも親善を深めていくことを確認しました。

中国上海市閔行区視察団訪問



大村湾に夢の懸け橋を

市長コラム

vol.30

あれは、もう50年近く前のことです。スタンフォード大学への交換留学生として3か月をカリフォルニアで過ごし、帰国前に知人を訪問するためにシアトルを訪れました。ワシントン湖に浮かぶ浮橋(フローティングブリッジ)を渡つて驚きました。今、日本にはアクアラインや本四架橋などもあります。今、日本にはアクアラインや本四架橋など大村湾に架けたいという構想を温めてきました。

大村市の対岸に見える西彼杵半島は近くに見えますが、旧琴海町(現長崎市)まで車で約1時間20分かかります。ここに長崎空港から橋を架ければ、最短十数分で往来することが出来ます。その効果として、アクセスが便利になり経済が活性化し、日本でもオンリーワンの観光スポットが誕生する、不測の事態に備えた長崎空港までの別ルート確保に有効である、という3つの大きな効果が期待できます。

この大村湾架橋の実現に向けては、その目的や規模から、国や県、そして大村湾沿岸の自治体が「丸」となつて取り組むべきビッグプロジェクトとなります。このため今年4月から架橋技術の専門家による研究会を立ち上げるとともに、沿岸自治体の首長の皆さんと自治体ネットワークを組織し、国・県を巻き込んで大村湾を活かしたまちづくりの論議を深めてまいります。

近い将来、大村湾を横断する世界最長の浮橋という懸け橋が長崎県の活性化、そして大村湾沿岸自治体の発展のきっかけとなるよう、構想の実現に向けて、いよいよ大きな一歩を踏み出します。